

NOTHING BUT SOME BOOKS

図書だより

令和3年9月14日
島本第一中学校
No.7 学校図書館



「お薦めの本をPOPで紹介しよう」 図書委員会

図書委員会で「お薦めの本をPOPで紹介しよう」という取り組みを行いました。一人一人が**自分のお気に入りの本**を見つけ、**その良さを言葉やイラストでどう伝えるか**を考え、作品作りに取り組みました。

1学期の懇談期間中に、放課後図書館に集まり、**真剣**に作業に取り組む姿、**友だちと相談**しながら**楽しく**作業に取り組む姿もありました。

できあがった作品は、生徒たちの伝えたいという**意欲、表現力や想像力の豊かさ**がよくわかるすてきな作品ばかりです。

図書館横の掲示板に掲示していますので、見に来てくださいね。一中のHPにも学年ごとに作品を掲載していますので見てください。**POPで紹介している本は図書館で借りることができます。**

3年生の作品は、大阪府立中央図書館主催の『あなたのおすすめ本のPOP広場』というコンテストに応募しています。作品が戻されたら掲示しますので楽しみに。



本と図書館 豆知識 (その2)



表現になります。

2で紹介したような理念を含んだ
は法律上の目的や図書だよりNO.
所、部屋といった意味合い。「図書館」
場合、本などの資料が置いてある場
「学校図書館」です。

その違いって何? 「図書室」という

「学校図書室」です。

ところで見なさん、日頃「図書室」

と言っていますか? でも法律上は

とする施設です。

健全な教育を育成することを目的

の教育課程に寄与すること、生徒の

教育に必要な資料をそろえて学校

「学校図書室」とは、図書など学校

が定められています。これによれば

「学校図書室」という法律でその位置づけ

図書「館」と図書「室」



☆新着本☆
リストは裏面

9月17日より新着本の貸出が始まります

9月14日(火)~16日(木)に図書館で新着本の展示をします。
どんな内容なのか、手にとってページをめくってみてください。
予約も受け付けています。貸出は9月17日(金)からです。



『拝啓パンクスノットデッドさま』

石川宏千花 / 著



高校1年生の晴己は、中学2年生の弟・右哉と古アパートで暮らしている。たまにしか帰ってこない母親の代わりに、アルバイトで生活費を稼ぎ、生活を回していく晴己。お金も、時間も足りなく、明日だってくるかどうかわからない。そんなギリギリの生活をおくる兄弟には、親代わりになって2人を世話してくれたしんちゃんから教わった、心の支えとなる音楽・パンクロックと、「いつか兄弟でバンドを組む」という夢があった。

『雲を紡ぐ』

伊吹有喜 / 著



いじめが原因で学校に行けなくなった高校生・美緒の唯一の心のよりどころは、祖母がくれた赤いホームスパンのショールだった。

ところが、このショールをめくって、母と口論になり、少女は岩手県盛岡市の祖父の元へ家出をしてしまう。美緒は、ホームスパンの職人である祖父とともに働くことで、職人たちの思いの尊さを知る

高校生たちが選ぶ「今年の1冊」——第8回高校生直木賞、受賞作

『ぼくたちは卵のなかにいた』

石井睦美 / 著



ぼくたちが住んでいる卵のなかには、山も、海も、町もあって、電車も走っている。平和で楽園のような世界なんだ。

そこで、一度だけ決断を迫られる。卵の世界を出て行くのか行かないのか、自分で決断しなくてはいけない。それが、13歳の決まりだ。

卵から出た世界で少年を待っているのは…。

『100さいの森』

松岡達英 / 著



全国から寄贈された樹を植えてつくられた人工の森。世界でも例のない、100年間続いてきた、広大な人工の森。それが明治神宮の森です。

100年の間に、針葉樹から広葉樹へと、森は、そのすがたを変えていきました。東京のほかの場所では見られないような生きものも、この森では息づいています。

人の手によって植えられましたが、そのあとは、自然に移り変わっていくのにまかせて、森は成長し、変化してきました。